

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592800049		
法人名	株式会社 福わらい		
事業所名	グループホーム西の森		
所在地	秋田県雄勝郡羽後町西馬音内字本町102		
自己評価作成日	令和5年9月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、家庭的な雰囲気大切にしております。
入居者が住み慣れた地域で、笑顔で楽しく安心して暮らせるように取り組んでいます。
入居者が買い物やお出掛に行きたいとの希望に沿うように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町中にある環境を活かしてコロナ発生以前のような活発な活動の再開に取り組もうとしています。
職員の発案による整理、整頓等の頭文字にSがついた6項目から成る6S委員会を立ち上げて職員の意見を収集し、環境を整えながら働きがいのある職場を目指すと共に、編み物が得意な方、歌が好きの方等、それぞれの今の思いに寄り添った支援をすることでで利用者の笑顔を見ることができるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、いつも目にすることで、普段から意識付けをしている。	毎月の会議で唱和し、話すことで意識づけを図り、利用者の笑顔の見える支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加したり、散歩や買い物、外掃除などで挨拶や会話を行っている。	町の伝統行事が再開し、散歩や買物の機会も増えています。除雪も協力していただいております。いつもと変わらない近所付き合いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の会合や研修に参加し、相談支援を行っている。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの状況報告を行い、参加者からの質問や意見を受けてサービスの向上に反映しております。	参加者から意見を出していただいておりますが、会議内容については職員に報告することがないため、会議が運営に十分に活かされておられません。	わかりやすく、読みやすい記録にすると共に地域の繋がりを深めるためにも参加メンバーの充実を図り、会議内容を職員と共有して運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場を訪問し、認定更新や介護サービス情報提供の指導を頂いている。 入居者及び退居者の情報を提供している。	運営推進会議で意見をいただいている他、窓口に向いて利用者の受け入れ相談をする等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の廃止を目標とした勉強会を行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。 全体会議等で虐待防止についての研修を行っている。 知識を深め全職員で共有している。	研修及び日常の業務で状況を話し合っており、職員は理解して対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で、日常生活自立支援や成年後見制度について研修を行っている。制度を活用している入居者様はいない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や面会の際には十分に話し聞き不安や疑問に答えている。入居時は契約書、重要事項説明書の内容の説明を行い、さらに不安や疑問に答え信頼関係を確立するように努力している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議にご家族様へ出席して頂き、意見や要望を伺い全体会議等にて職員に周知している。	電話で話を聞くことが多く、面会や外出、外食の要望に対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	年2回個人面談を行い、月1回の全体会議に専務、介護部長が参加し職員の意見や提案を聞き機会を設け反映されている。	職員が立ち上げた委員会を通じて、また、随時職員同士で情報を共有し、ケアの質の向上や業務改善に繋げています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設での研修への参加したり、月に1回管理者会議があり、他事業者との管理者と交流を図り研修を行っている。包括センター主催の介護支援専門員の研修会に参加するこにようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1でお話し、ご本人様の不安や要望を伺い傾聴し今後協力要請が出来るような関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の聞き取りには十分に時間を掛け、不安や要望を伺い今での介護を行ってきたことにねぎらう言葉を掛け、今後の協力要請できるような関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持った対応をし生活の知恵や知識を教えて頂いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月、入居者様の日頃の様子の日頃の状況の様子を手紙で送付しております。面会時は事務所に面会をしています。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	いつでも電話がかけられるような体制をしている。コロナウイルスの感染防止をして頂きながら演芸の方々をお呼びする予定です。	家族の協力が得られることが多く、その関わり方については柔軟に対応しています。馴染みの理美容院の利用や好きなことを続ける等、これまでと変わらない生活ができるよう支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の中に職員が介入し、昔の話しや生活について話を引き出しながら会話を広げ入居者様同士の関わりを築く事によって自然に入居者様同士が思い合うようになる。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了してもこれまでの関係性を大切に、必要に応じてご家族様の相談にのったりされる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当会議を開催し(状況に合わせて電話対応をしている)ご本人様やご家族様の要望や意見の把握に努めている。	職員と二人きりの時に思いを伝えてくれることが多いことから、入浴時や夜勤時等は利用者の意向を把握できる良い機会と捉え、その情報を支援に活かせるように取り組んでいます。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、担当ケアマネに同席して頂き、アセスメントを実施し把握に努めている。入居前のフェイスシートを参考にし入居後の生活の経過記録を用いて現状の把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	申し送り等の話し聞き常日頃からご本人様の意見を聞いてたり、サービス担当者会議を開催し、主治医の意見書や職員の意見等を反映しアセスメントを行い、介護記録を作成している。	介護計画の実施状況を日々の支援記録でチェックし、申し送り事項や日常の様子を毎月の会議であらためて確認し、介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	入居様の生活パターンやケアの実施や結果を記入することで、職員で情報共有しご本人様にあった介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居様が住み慣れた地域で安心安全な生活が営めるように図書館、番踊り会館、警察や消防署を活用し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や薬局は入居前からの医療機関にそのまま受診対応している。受診は家族様が同行出来る時は日頃のバイタル等や体調などの状況を報告して受診対応して頂いている。家族様が出来ない時は職員が同行している。	利用者個々のかかりつけ医で受診できるよう支援しており、職員、或いは家族が通院介助しています。協力歯科医、薬局との連携も図られています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、月4回訪問実施、訪問日の前日に入居者様の状態を報告し当日に入居者様の健康状態をチェックし、適切な指示や指導、相談の支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は普段の状態、食事形態等を報告している。入院中は電話等で看護師から状況、状態等を聞き退院後指示を仰いで頂いている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、家族様と話し合い、思いや要望を把握し医師と相談し訪問看護とも連携を図り、出来ることを増やしている。	医師の確保ができないこともあり、ホームでの看取りには対応できないのが現状です。家族にはホームでできることを説明しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備えて定期的に全体会議等で研修を行っており、実施力をみつけている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、消防署や運営推進会議時の際に地域消防団からアドバイスを頂いている。近隣にも協力をお願いし体制を築いている。	水害時には建物2階に避難をすることにしており、飲食料、ポータブルトイレ等の備品を準備しています。地域の協力が得られることになっていますが、訓練への参加はありません。	冬季及び夜間の災害時の職員の不安を解消し、安全に避難できる具体的な対策を目標達成計画に基づいて早急を実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って声掛けし入居者様の目線で話し掛けることを心がけている。	その人の人格を尊重した支援に取り組んでいます。排泄や入浴介助の際にも配慮ある声かけができるよう心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理髪を利用したり、理髪店に出向いたりしている。 更衣の際は本人様が自ら更衣されたり、本人様の意見を聴いて一緒に準備したりしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人様の嗜好を確認し、献立に取り入れている。メニューが確認できるように掲示している。食事の準備や後方付け等は利用者様と一緒にしている。	ホームの畑で収穫した野菜の献立のヒントをいただいたり、弁当を注文していつもと違う雰囲気を楽しんでいただいている。職員や家族と外食に出かけることも増えてきています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立をもとに調理している。食事量や水分量は記録に残しており一人一人に応じた支援を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状況や状態に応じながら口腔ケアの声掛けや誘導を行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導したり自立されている利用者様には見守り支援を行っている。	トイレでの排泄を支援しています。チェック表で確認し、その人に合った支援が行われています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や朝食後牛乳を提供したり、乳製品を取り入れ水分も十分に摂って頂くように声掛けをしている午前と午後に歩行運動やレク活動の際に体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しんで入浴できるように、色々な効果のある入浴剤を入れたりしている。入浴日は計画的になっているが利用者様の要望や体調を考慮しながら支援している。	週2～3回を目安に入浴しています。利用者の希望に合わせて回数を増やしたり、ゆっくり入浴できるような支援が行われています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に過ごして頂き、夜間は良眠できるような声掛けや見守りなどの支援をしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の目的や副作用等については周知し理解に努めている。 症状の変化を確認した際は主治医、訪問看護に報告や相談して連携を図っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、調理や食器拭き等で出来る事を役割分担している。 個別にあったレクリエーションを工夫して気分転換を図っている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内散歩やドライブに出掛けている。 入居者様の希望で買い物に出掛けたり家族様と外出や外泊されたりされている。 コロナ感染者の状況をみながら対応している。	花見に出かけたり、受診の帰りにドライブを楽しんだり、個別の希望に応じて買い物に出かけることもあり、家族が外に連れ出してくれることが多いようです。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いは金庫で管理を行っている。入居者様の要望で自由に所持できるようになっている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、ホールに季節感を感じるものを飾っている。不快な臭いがある時には十分な換気を行い、消臭剤を置いたりし居室内は22℃～23℃で管理して居心地よく過ごせるように工夫している	季節を感じ取ることができる飾りつけを心がけています。廊下には季節毎の催しを楽しんでいる利用者の様子がわかる写真が展示されていますが、節電の影響を受けない所に展示した方が話題づくりに役立つ感があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは席を固定せず、入居様が自由に座れる空間づくりをしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた物を持参して頂き設置場所は入居様に確認をして頂き居心地よく過ごして頂けるように工夫をしている。	自分で作ったものを飾ったり、洗濯物を干したりと、利用者それぞれが自分の生活の場として環境を整えています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居様が混乱しないように自由に名前を表示したり入居様のお気に入り物を表示し必要箇所の手すりを設置している。		